

熊本はばたき高等支援学校 令和7年度（2025年度）学校評価表

| | |
|-----------------|---|
| 1 学校教育目標 | 一人一人の可能性を拓き、「生きる力」を育む教育活動を通して、主体的・協働的な社会生活・職業生活を営み、未来を切り開く力を培う。 |
|-----------------|---|

| | |
|-------------------|---|
| 2 本年度の重点目標 | <p>(1) 安全・安心に学べる教育環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒を中心に据え、生徒の人権を守る意識の徹底と実践 ・職員間の連携・協力体制の構築及び体罰や不適切な指導の根絶 ・実践的な訓練の実施、危機管理マニュアルの改訂及び地域と連携した防災体制の充実 <p>(2) 教育内容の充実</p> <p>ア 各教科等及び自立活動の指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の質を担保し、個々の教師の指導実践力を高める授業づくりの仕組みの構築 ・生徒一人一人が直面している学習上又は生活上の課題を見据え、的確に指導に反映できる専門性の獲得・向上（自立活動） ・生徒一人一人の状況に応じた多様な学びの工夫・実践（ICT機器の効果的な活用等） <p>イ 進路指導とキャリア教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との確実な連携と生徒が自らの生き方や進路について考えるキャリア教育の実施 <p>ウ 生徒指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個性を受け止め理解し、生徒側に立って考える指導の実施（自立活動の視点からの指導） ・生徒が考え意識し、より良い自分を目指す指導の実施（個性を引き出し、磨き、つなぐ） ・いじめの未然防止と早期発見及び迅速で組織的な対応の実施 <p>(3) 保護者及び関係機関との円滑な連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者への取組等のわかりやすい説明、細やかな情報共有及び相談等への丁寧な対応 ・福祉・労働・医療等の関係機関及び地域の関係者との密接な連携 <p>(4) 特別支援学校のセンター的機能（センターオブセンター）の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育課との連携による機能拡充、専門家育成 <p>(5) 職員一人一人が力を発揮しやすい（発揮する）学校づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務等の見直し、簡素化、効率化等による生徒と向き合う時間の確保 ・規定の部署・部門等の枠を越えた連携及び立場・役職等を加味した業務の平準化 <p>(6) 不祥事全般の根絶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「チーム学校」の一員であるという意識の高揚 ・風通しのよい職場環境づくりと報告・連絡・相談の徹底 ・リスクマネジメントの理解向上 |
|-------------------|---|

| 3 自己評価総括表 | | | | | | |
|------------------|------------|-----------------------|--|---|----|---|
| 評価項目 | | 評価の観点 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 成果と課題 |
| 大項目 | 小項目 | | | | | |
| 学校経営 | 働き方改革を推進する | 校務分掌の見直しによる業務の簡素化、効率化 | 業務の平準化、簡素化、効率化をとおして、時間外勤務時間を昨年度より縮減する。 | 業務内容を確認し、各校務分掌の偏りや課題の整理を行い、校務分掌のさらなる見直しを図る。 | A | <p>○一ヶ月に2日の定時退勤日を設けるなどの取り組みから、時間外勤務時間の平均が昨年度28.2時間から今年度(1月現在)25.4時間となり、大幅に縮減できた。</p> <p>○分掌部と学習指導部を分けて構成していたが、次年度は分掌部を全員が担うように見直しを図った。</p> <p>○業務の偏りが見られるため、各分掌部の業務を整理し、業務の調整を行う。</p> |

| | | | | | |
|-------------------------|-------------------------------------|---|---|-----------------|--|
| <p>公務員と倫理観意の高揚を図る</p> | <p>職員間の連携・協力体制の構築及び不祥事等の防止等</p> | <p>○不祥事防止研修を実施し、公務員としての規範意識の高揚させるとともに、全国での事案等を提示し、自分事として捉え、適切に行動できるようにする。</p> | <p>○校長講話、外部機関との連携などを積極的にしながら工夫した研修を実施する。 ○終礼や職員会議等日々参加する機会を活用して、事例等を提示する。</p> | <p>B</p> | <p>○夏休み期間にオンデマンド型でハラスメント防止研修、12月末に集合研修でリスクマネジメントについて、校長講話を実施した。不祥事防止に必要な意識と具体的な事例を挙げて学ぶことができ、自分事として捉える意識を高めることができた。不祥事防止のため、今後も不断の取組が必要である。 ○終礼や朝礼などで資料を提示して教育委員会の通知等を随時確認することで、意識の高揚を図ることができた。</p> |
| <p>校内外の危機管理体制を充実を図る</p> | <p>危機管理マニュアル及び学校防災マニュアルに基づいた訓練等</p> | <p>○避難訓練の実施をとおし、避難に必要な環境整備や避難方法について、全職員に周知するとともに、全生徒が安全に避難できる環境を整える。</p> | <p>○火災及び地震避難訓練時に、職員の動きや支援の方法について事前に確認を行う。 ○避難方法のフローチャートをリーフレット化し、各教室に設置することで、全職員が確認しやすいようにする。</p> | <p>B</p> | <p>○天候に応じた避難場所等の変更が生じたこともあったが、危機管理マニュアル及び学校防災マニュアルに基づいた訓練等を計画通りに実施することができた。 ○避難時に使用する避難グッズの設置場所を事前に確認し、担当する職員に事前周知したことで、安全に生徒を誘導することができた。次年度は重複障がい学級の生徒が3学年そろうことから、迅速に避難できるための検討が必要である。</p> |
| <p>保護者及び関係機関との連携を図る</p> | <p>保護者及び福祉・労働・医療等の関係機関との密接な連携</p> | <p>○PTA執行部会を中心とした連携を密にし、行事等の運営を、PTAと協力する。 ○保育所等訪問の活用を都度検討し、生徒の自立活動等必要な支援方法を共有して、生徒の成長を促す。</p> | <p>○体育祭・文化祭などPTAへの協力を執行部会で提案して模索し調整する。 ○保育所等訪問を実施する際、その目的を明確にする事前相談を実施していく。事後には生徒の成長に効果のある支援方法について、協議する。</p> | <p>A</p> | <p>○体育祭や文化祭では、主に駐車場整理や写真撮影を依頼した。依頼することを整理して、執行部会の前に打ち合わせを行うことで、より具体的な提案ができた。 ○今年度、保育所等訪問で連携した事業所は5件、7人に対応していただいた。実施する前に主幹教諭と特別支援コーディネーターで面談を実施し、計画等を確認し、実施した内容についても把握した。重複障がい学級の生徒にとっては、とても有意義な機会となった。</p> |

| | | | | | | |
|----------------------------|---------------------------------|---|---|--|-----------------|--|
| <p>授業の充実</p> | <p>各教科の授業充実にを図る</p> | <p>カリキュラムマネジメントの構築</p> | <p>○教材や授業の展開を十分に検討し、各教科等の指導を適切かつ効果的に実施する。併せて、次年度に向けて、教材保管フォルダを整備し、年間指導計画に沿った計画的な授業の実施ができるよう仕組みを整える。</p> | <p>○学習指導部が中心となり、教材や授業展開について教科・作業ミーティングで検討する。 ○誰が見てもわかりやすい教材の保管方法を提示し、定期的に教材保管の時間を確保する。</p> | <p>B</p> | <p>○月に1回、学習指導部が主導となり、教科ミーティング・作業ミーティングを実施した。生徒の実態や学習評価をもとに、単元計画、教材の選定、授業展開など、単元を評価・修正する機会となった。次年度は、効果的に実施できたか検証が必要である。 ○前期・後期ごとに教材保管の時間を設定することで、年間計画に基づいて作成した教材データを、単元ごとにわかりやすく整理し、保管することができた。</p> |
| | <p>自立活動の充実にを図る</p> | <p>生徒一人一人に的確に指導を反映できる専門性の獲得・向上</p> | <p>○生徒一人一人の障がいに基づく学習上又は生活上の困難を明らかにし、個々の生徒に応じた指導計画を作成する。</p> | <p>○担任との定期的な情報交換や研究協議を通して、生徒理解を深めながら自立活動の目標や共通理解を図り、組織的な実践力を高める。</p> | <p>A</p> | <p>○定期的な全体研修会を通し、自立活動の視点を教科指導や学級経営に生かすための学びを深めることができた。 ○年度末には各クラスで自立活動の目標と指導内容を振り返る時間を設定し、指導の方向性を次年度に引き継ぐ基盤を整えることができた。</p> |
| <p>キャリア教育(進路指導)</p> | <p>生徒が自らの生き方について考え、進路を推し進める</p> | <p>職業(座学)及び産業現場における実習(現場実習)の充実</p> | <p>○現場実習をとおして生徒の希望や適性に合わせた進路実現を図る。</p> | <p>○生徒、保護者との個別面談、実習中の巡回指導や事後学習等を丁寧に行う。 ○実習先(進路先)と生徒の希望を踏まえ、必要に応じて関係機関と連携しながら適切なマッチングを図る。</p> | <p>B</p> | <p>○生徒の特性や保護者の希望、事業所の評価等を基に、限られた条件の中で担任と丁寧に摺り合わせながら現場実習を計画・実施し、進路実現に向けて取り組むことができた。就学選択支援が本格化していくので、外部と連携を図りながら進めていく必要がある。</p> |
| <p>生徒(生活)指導</p> | <p>個性を受け止め、理解し、側面から指導の充実</p> | <p>現状把握や行動分析を行った上での生徒一人一人に合わせた生徒指導の充実</p> | <p>○問題行動や指導事案が発生した際、速やかに聴き取りを行い、状況を把握するとともに、行動の背景や特性等様々な要因を分析しながら、個に応じた適切な指導を組織的に行う。</p> | <p>○日常の生徒理解を徹底するとともに、情報を速やかに共有しながら生徒の特性等を考慮した指導を行う。 ○積極的に関係機関と連携し、個々の生徒にとって最良の環境整備を行う。</p> | <p>B</p> | <p>○事案発生直後から役割分担を明確にし、複数の職員で多角的な事実確認を行ったことで、事案の全容を把握し、迅速な初動指導につなげることができた。また、関係機関からの助言を活用し、専門的な視点を含めた指導を実践するなど、概ね適切な事案対応ができた。しかし、SNSでのトラブルが多い傾向にあるので、関係機関との連携や指導の充実が必要である。</p> |

| | | | | | | |
|----------------|---|---------------------------------------|---|--|----------|--|
| <p>人権教育の推進</p> | <p>生徒の権利意識と実践を図る</p> | <p>職員の充実に定期的な検</p> | <p>○教職員の研修や人権意識の向上を図る。</p> | <p>○生徒の人権意識を高めるために、教職員研修(年3回)、人権感覚チェックリスト(年3回)を実施する。</p> | <p>B</p> | <p>○夏季休業中に外部講師を招いて部落差別、人権に関する法令等についての職員研修を実施した。講演を通じて、教職員が研修内容に関する正しい知識を学び理解を深める機会となった。 ○人権感覚チェックを年3回実施し、自身の言動について定期的に振り返ることで、職員全体が日頃から意識して行動することができた。しかし、依然として生徒同士のトラブルや、からかい、不適切な発言もあるので、教職員の意識の向上は不可欠である。</p> |
| <p>いじめの防止等</p> | <p>命を大切にする心を育てることを図る</p> | <p>いじめ防止に向けた生徒会活動の推進及び情報収集、初め等の充実</p> | <p>○生徒会活動においていじめ防止に向けた取り組みを行い、生徒全体の意識の向上を図る。 ○いじめと疑われる事案発生時の状況を丁寧に聴き取り、速やかに関係機関と連携する。</p> | <p>○各クラスで人権に関する学級目標を設定し、その取り組みについて年度末に振り返る機会を設ける。 ○いじめ対応マニュアルの手順を研修会で示し、対処の方法について職員の共通理解を図る。</p> | <p>B</p> | <p>○道徳の授業において、人権教育主任や学年担当者と連携した指導案を作成し、実践した。生徒が互いにいじめ防止について考える場を設けるなど、意識向上に向けた取り組みを適切に行った。心のアンケートや面談を通じて把握した生徒の悩みに対し、校内での情報共有や関係機関との連携を適宜実施した個別の事案についても、学校全体の方針に基づき、計画的な対応に努めたが、今年度の認知件数は14件、解消は12件となっている。</p> |
| <p>地域支援</p> | <p>特別支援教育のセンター的機能(センターオブセンター)の充実を図る</p> | <p>各校及び地区のコーディネーターとの情報共有及び連携強化</p> | <p>各校の特別支援コーディネーターが巡回相談や地域の会議等の中で気づいたことや疑問に等集約し、具体的な方策についてコーディネーター全体で情報共有しながら協議して連携を図る。</p> | <p>各学校のコーディネーターから寄せられる毎月末の巡回相談報告時や、クラスルームでのやりとりの時に、積極的に意見を集約し、特別支援教育課に挙げる。課題や検討内容を早期に提案し、月1回のWebミーティングで協議できるように調整する。</p> | <p>B</p> | <p>○先生方と日頃から話をし合える関係作りを努めて意識して色々なやりとりを行った。また、ミーティングの後半に毎回意見交換や共有の時間を設けることにした。その結果、昨年度よりも多くの先生方から思いや情報を集約することができた。集約した内容をまとめて、就学等支援アドバイザーや特別支援教育課の指導主事と適宜話し合いを行い、特別支援学校のセンター的機能の充実を図ることができた。今後、校内支援と校外の業務の整理が必要である。</p> |

| | | | | | |
|---------------------------|----------------------------|----------------------------------|---|---|---|
| <p>地域連携（コミュニティスクールなど）</p> | <p>地域や近隣学校との連携体制の充実を図る</p> | <p>地域や近隣学校等への積極的な情報発信及び交流の推進</p> | <p>各教科や作業学習等で地域や近隣の学校との連携を図り、協働的な学びを実践する。</p> | <p>作業学習を通じて盲学校と聾学校の生徒がよりよく交流できるように、話し合いや作業準備の時間を設定する。また、販売会の開催や喫茶サービス班のカフェ運営等を通じて、本校の教育活動を地域に知ってもらう機会を設定する。</p> | <p>B</p> <p>○本年度は、盲学校2人と聾学校2人が、本校の生徒と一緒に作業を行った。実施に伴い、今年度から年3回担当者会を設けて生徒の情報交換を行い、作業準備も適宜連絡を取り合いながら実施することができた。</p> <p>○今年度は年度末に各学年で作業製品の販売会を開催する予定である。また、喫茶サービス班のカフェは、平均して週1回のペースで運営することができた。さらに、喫茶サービス室には本校の作業製品の展示コーナーも常設する等、地域に向けて本校の教育活動を知ってもらう機会になった。販売会の回数、近隣の高校や、地域の方々との交流の機会を増やしていくことが必要である。</p> |
|---------------------------|----------------------------|----------------------------------|---|---|---|

| |
|---|
| <p>4 学校関係者評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校としての特性を生かし、一人一人の個に応じた個別最適な学びを推進し、支援学校として子どもたちに寄り添った教育を実践してほしい。 ・進路指導について、就労選択支援等を活用し、生徒と保護者の希望を考慮した上、事業所と連携しながら丁寧に取り組んでほしい。また、自分に合った働き方や一般就労へのステップにも課題があるため、学校と相談支援事業所が連携して、一人一人に合った進路指導を実践してほしい。 ・生徒指導について、全体的な指導だけでなく個別的な指導を実践するなど個に応じた取り組みを行い、蔓延する薬物乱用についても指導の徹底をお願いしたい。 ・近隣校との交流や、販売会の充実等、地域との連携を図り、開かれた学校作りを充実させる。 |
|---|

| |
|---|
| <p>5 総合評価</p> <p>本校の学校教育目標を達成すべく、職員一丸となりそれぞれの役割を果たそうと努力している。本年度の重点目標に対して「不祥事全般の根絶」という項目を増やし、それぞれの目標に向けて丁寧に取り組んできた。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 安全・安心に学べる教育環境の整備 生徒の人権意識を高めるために様々な取り組みを行っているが、依然として生徒同士のトラブルが絶えないため、より一層、職員の意識を高揚させたい。各種避難訓練の実施、危機管理マニュアルや福祉子ども避難所マニュアルの作成等、計画的に実施できた。重複障がい学級の迅速な避難方法の検討が必要である。 (2) 教育内容の充実 学習指導部が中心となり、全ての教科の教材保管が完了した。次年度からは、保管された教材を、それぞれの実情に応じた教材に整理し、効果を上げていきたい。また、生徒・保護者の希望をもとに、面談を通して丁寧な実習計画を行うなど、個に応じたキャリア教育を実践している。自立活動の充実、クライシスマネジメントの構築、いじめ事案に対するマニュアルの周知徹底等、生徒指導全般に対する基盤整備を進めている。 (3) 保護者及び関係機関との円滑な連携 PTA執行部を中心とした連携を密に図ることができ、円滑な関係を構築できている。保育所等訪問を活用するなど、地域の関係機関との連携も強化している。近隣学校生徒との交流や本校の成果物販売会等への地域住民の参加など、地域との連携を図っているが、機会の場を増やして行きたいと考えている。 (4) センター・オブ・センターの充実 特別支援教育課や就学等支援アドバイザーと連携し、各学校の特別支援コーディネーターとの支援体制を構築しており、センター的機能を十分に果たしている。今後は、校内の支援体制とセンター・オブ・センターの業務の整理が必要である。 |
|---|

(5) 職員一人一人が力を発揮しやすい学校づくりの推進

職員の時間外勤務時間を昨年度より大幅に削減でき、生徒と向き合う時間の確保に繋がった。次年度は校務分掌の改編を行うことで、更なる業務の簡素化・効率化を目指したい。職員が得意とする分野に関し、希望する職員が研修を受ける「ミニ研修」を企画するなど、職員の資質向上に努め、職員一人一人が力を発揮できる環境づくりにも尽力した。

(6) 不祥事全般の根絶

本校独自の研修等を企画するなど、不祥事防止に対する職員の意識が高まった。職員間での情報共有、及び主任や管理職への報告・連絡・相談を行うことが当たり前の雰囲気浸透し、風通しのよい学校づくりを職員全体で取り組んでいる。

6 次年度への課題・改善方策

【課題1】教科教材の活用促進

今年度、教科指導部会を中心に、それぞれの職員が保有する教材の担保を行った。次年度は、担保された教材をどのように生かすか、さらにどのような効果があったかを検証することが課題となる。

(改善方策)

教科指導については教務部で管轄するとともに、これまで同様、定期的な教科ミーティングを開催し、生徒のニーズに応じた年間指導計画や教材の研究を進める。

【課題2】生徒指導の充実

SNS上におけるトラブルや、からかいや不適切な発言が絶えず、いじめの認知件数も14件と非常に多い。生徒の現状を把握し、未然にトラブルを防止する方策が課題である。

(改善方策)

未然防止の観点を重視し、日頃から学年を越えた職員間での情報交換を行うなど、教育活動全体を通し、人権教育を意識した発達支持的生徒指導を実践する。また、多様化する問題に対し、専門機関と連携を密に図り、生徒の実態に応じた指導を計画する。

【課題3】キャリア教育の推進

就労選択支援事業が本格化することから、スケジュールの調整や、関係機関との連携を図った情報共有が必要となる。

(改善方策)

就労継続支援への進路を希望する生徒の状況等について就労選択支援事業所と連携を図り、関係機関の役割を明らかにする。また、校内の行事等を考慮したスケジュールの調整、及び、保護者・生徒への丁寧な説明を行う。